

## 〈はじめに〉

『文化と生物学』編集部一同

ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』と申します。広大なインターネットの海から、私たちのメディアをみつけてくださり、ありがとうございます。

私たちは、現代を生きるヒトの営みである「文化」と、生き物の本質を追求する「生物学」についてのメディア・ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』を創刊しました。「文化」と「生物学」が交錯する場に魅力と可能性を感じ、今後さまざまなコンテンツやプロジェクトを制作します。

創刊号 Vol.00 の特集は「文化」と「生物学」です。なぜ私たちは「文化」と「生物学」に惹かれるのでしょうか。「文化」と「生物学」がもつ魅力を探るべく、さまざまな専門家たちに取材を行いました。

まずは、長年イグ・ノーベル賞を紹介してきた“イグおじさん”こと立教大学の古澤輝由さんに学問とその伝え方について伺いました。また「生物学」とカルチャーの橋渡しを実践している先輩である『ゆるふわ生物学』の活動を紹介したり、学研の図鑑編集部に在籍する松原由幸さんに図鑑のつくりかたについて教えていただいたりしました。さらに「文化」とは何かについて、編集者の伊藤ガビンさんや『広告』編集長の小野直紀さんにも問いかけました。

連載では注目のコレクティブ「コ本や」によるブックガイドや、クリエイティブコーダー・高尾俊介さんと生物学者・菅野康太さんによる寄稿、『文化と生物学』メンバーによるエッセイもあります。

記事ごとに PDF でパッケージしています。どこから読んでいただいても構いません。スマートフォンでも、パソコンでも、お時間がゆるすならプリントアウトして紙でも読んでみることをオススメします。

『文化と生物学』編集部のメンバーは、編集者かつ大学院でネコの研究をしている服部円、ディレクターでありアーティストの飯沢未央、クリエイティブディレクターの細谷祥央、植物学者かつアーティストの切江志龍、グラフィックデザイナーの岡崎智弘です。またアドバイザーとして、生物学者・アーティストの岩崎秀雄さん（早稲田大学）と生態学者の伊勢武史さん（京都大学）が参加しています。丸い顔のアイコンは「文生（ぶんせい）くん」といいます。「文化」と「生物学」を咀嚼してモグモグしています。

WEB サイトは HAUS の竹田大純さんが制作してくれました。また Vol.00 の刊行にあたり MAM の柊山寛さんにサポートいただきました。ほかにも『文化と生物学』の立ち上げに際したくさんの方々にご協力いただきました。「文化」と「生物学」をテーマに新しいメディアを作りたいという私たちの突飛なアイデアに、共感し、応援してく下さり、ありがとうございました。ようやくお披露目ができます。

新しい知見や出会いをもたらす雑誌のように、子どもの頃に体験した驚きやワクワクをもたらす図鑑のように。知的好奇心を満たすズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』を楽しんでいただけたら幸いです。